

第32回
神奈川県
美術展



1996

96 T. WATANABE



第32回神奈川県美術展

1期展—平面・立体 平成8年10月1日(火)—13日(日)

2期展—工芸・書・写真 平成8年10月15日(火)—27日(日)

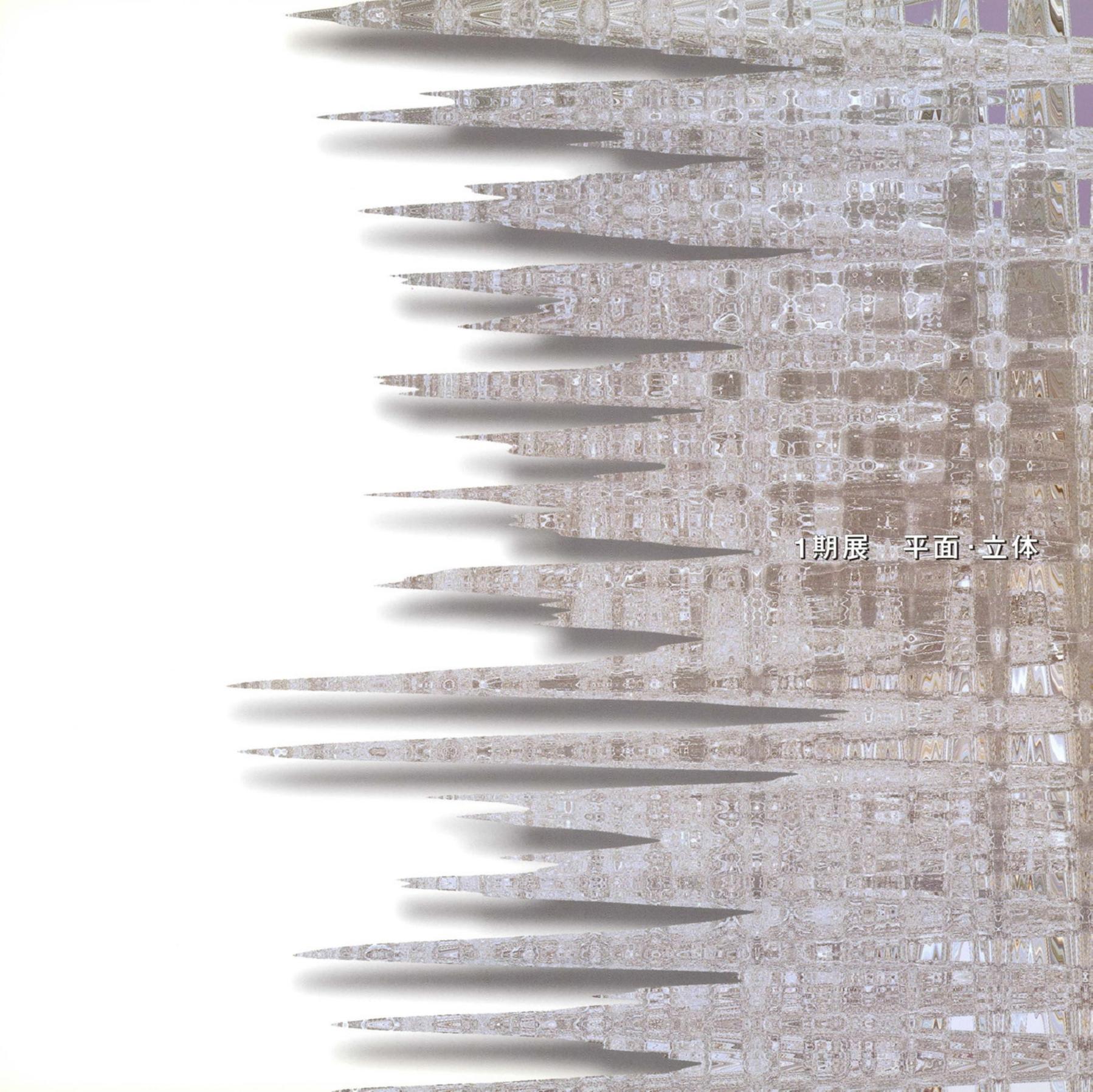
会場 神奈川県民ホールギャラリー

主催 (財)神奈川芸術文化財団・神奈川県・神奈川県美術展委員会

厚木巡回展 平成8年11月28日(木)—12月4日(水)

厚木市市民ギャラリー





1期展 平面・立体

受賞作品目録

〈平面・立体〉

大 賞	結 城 勉 (鎌倉市)	立体 個々の領域ー群像Ⅱ
準 大 賞	桜 井 武 人 (横浜市)	平面 風化の詩96H
特 選	浜 田 澄 子 (東京都目黒区)	平面 自然の内側に入る
特 選	右近多恵子 (藤沢市)	平面 ゲッコウヨクー(K-09)
特 選	三 沢 厚 彦 (藤沢市)	立体 コロイドトンプ(鹿の居る部屋の記憶)
特 選	剣 持 啓 子 (横浜市)	立体 SANAGI-96/1
県立近代美術館賞	堂 免 修 (南足柄市)	平面 出現A
美術奨学会賞	遠藤麻紀子 (横浜市)	平面 Red Zoneー存在の軌跡よりー
美術奨学会賞	藤井浩一朗 (東京都八王子市)	立体 循環源象
はまぎん財団賞	武 田 律 子 (小田原市)	平面 「旋」作品12

※美術奨学会賞とは、県内の美術の振興と新進作家の発掘・育成を目的として設立された神奈川県美術奨学会から神奈川県美術展に出品した優秀作家に給付される奨学金です。
はまぎん財団賞とは、県内の美術の振興と新進作家の発掘・育成を目的としてはまぎん産業文化振興財団から神奈川県美術展に出品した優秀作家に給付される賞です。

入選作品目録

〈平面〉

- | | |
|------------------------|----------------------------|
| 沢田滋野 「風化Ⅰ」 | 井口貴夫 「Water' 96-11」 |
| 横地光 「ナーガのテラス」 | 久世和寿 「『土地、徵』」 |
| 田鍋愛希 「白昼夢」 | 伊東玲子 「誕生」 |
| 平田清隆 「無題(Ⅲ)」 | 高橋秀幸 「稜線片影」 |
| 伊藤彰規 「ゲニウス・ロキ 北へ」 | 加藤晶 「dancing in the wind」 |
| 西国学 「検温時…手紙…一瞬」 | 岸上嘉世子 「さだまらない風景」 |
| 大工公司 「Boctok96-11」 | 澤岡泰子 「まよえる者達の存在の確認A」 |
| 工藤力 「人の風景」 | 井伊泰子 「滋養」 |
| 田端麻子 「かべの中」 | 加藤恭夫 「鳥のいる(1)」 |
| 小林典子 「アトリエの詩(春)」 | 田鷗佳子 「「メ」」 |
| 生駒幸子 「一隅Ⅰ」 | 川崎千恵子 「ネットー1996-13」 |
| 石川紀子 「着水」 | 伊藤貴祥 「逃げ水」 |
| 臼井恵之輔 「FU 96-11」 | 石井誠 「IN THE SKY」 |
| 原田智恵 「風の軌跡」 | 栗林菊枝 「マイ・コンポジションNo.1」 |
| 横山将二 「作品1996-No.30」 | 堀岡正子 「樹の譜Ⅱ」 |
| 月館京子 「夢にきませ」 | 目黒敏子 「脳Ⅱ」 |
| 永野耀子 「プロッコリーの四季」 | 大塚とみこ 「カオス表現Ⅱ」 |
| 谷澤真希 「トモシビ」 | 芝田しげる 「スペクトルⅡ」 |
| 山田勝廣 「風のラビリンス(Ⅱ)」 | 市村順子 「蓮池」 |
| 後藤公一 「Frontal · 96-Ⅱ」 | 池田美弥子 「夏のささやき」 |
| 田島佳世 「重なる-Ⅲ」 | 伊藤美代 「Out of Control-無重力-」 |
| 松澤五男 「風速計96A」 | 田辺いづみ 「flowerⅠ」 |
| 市川敏夫 「17-0896」 | 佐藤潔 「都市へ、又はフーガ」 |
| 高浦とみ子 「出サナカッタ手紙」 | 谷川悦子 「大地の鼓動Ⅱ」 |
| 安田文夫 「LIVE IN SHONAN」 | 田村木人 「HEART.Nō.8」 |
| 原田直治 「NOT DEAD」 | 品川成明 「COPPER WORKS · 2」 |
| 為金義勝 「前奏曲から」 | 森敦子 「夏の庭」 |
| 大野つるね 「歩くシリーズ7」 | 赤木明実 「伝説の麒麟No.1」 |
| 高橋さやか 「中華料理症候群」 | 井手菜穂 「ある日のこと」 |
| 石毛千穂 「戸-KO- <民族性シリーズ>」 | 井上英里 「過ぎゆく時の中で」 |

清野耕一 「Evolution (進化) 96-1」
下條紘子 「海はるかなり」
菅沼穂 「Paraphrase · 7」
鈴木國男 「あの夏の永遠の一瞬をたたえて（I）」
林節子 「ポンペイ」
藤井信孝 「平均律 I」
安藤哲子 「砂上の光III」
平沢理紀夫 「青いピアスのムスメ」
中村智恵美 「ODD」
吉田誠子 「弓力バランス · II」
瀬尾きみ子 「時間・位置-9606W-J」
川北美世子 「糧96」
伊藤香代 「crackA」
正木淑子 「惑II」
前田啓子 「虜（とりこ）' 96」
加藤ひろみ 「第三の時刻（とき）」
今村幸子 「イメージII」
熊田至 「さ！」
青木登史男 「テウテウマンガNO1」
小幡悦子 「あこがれ」
土田幸雄 「8月5日」
安藤克也 「beating」
古賀智子 「Memory No.17」
千葉和雄 「作品B」
宮崎文子 「“ピカブト人の図”『贊歌』」
小川了子 「白夜」
金谷ゆみえ 「風化」
白崎裕義 「モデルA」
中山智介 「植物の中の自画像」
佐藤裕美子 「短形の譜 · 洲」

浦野紘一 「情報伝達できない情報の仕組ーI」
村上遊 「96' L' été」
加藤正二郎 「彼方へー1」
小玉政美 「残された情景（II）」
渡辺佐久子 「ウチハソト」
近藤宏治 「発言の人」

〈立体〉

- 辻 真由美 「風の軌跡～白い月」
小宮彌栄子 「巨人界－P I L E D」
菱刈 俊作 「昔からの質問」
千田 肇 「ワイルド・キャット」
倉橋 元治 「SHABBAT」
高須賀昌志 「よりそつかたち 〈二本の柱〉」
田中太賀志 「L o s t c o r a l 一ムルロア環礁からー」
郡田 政之 「P O S I T I O N」
高橋久美子 「パイプのパイプのパイプ」
たべ・けんぞう 「R E B I R T H F I E L D」
河合 勇作 「A N O T H E R F I E L D」
阿部 佳明 「臨界門～ナルチシズムの時代」
長島 秀行 「はくちょう座の石」
丸田 秀三 「世界修復の試み」
望月 理恵 「木もれ陽の中で」
-

審査経過

平面部門

搬入点数563点（327人） 入選点数102点（102人）

神奈川県美術展は今回から機構・運営を大きく変えて、平面・立体と工芸・書・写真の2部門にわけ、それぞれ10人前後の審査員によって別々に審査し、全体を神奈川芸術文化財団が主催管轄することになった。ファイン・アート（美術）についていえば、従来の洋画・日本画・版画・彫刻・オブジェなどのジャンル別審査の枠をはずし、平面と立体の区別は一応残すものの、同じ審査員によっていっしょに審査されることになる。これは他の県展や美術コンクールにもみられる、近年の趨勢に合致している。

ただし応募総数は平面563点、立体50点とかなり多く、あら選りから入選決定まで、賞候補選びから授賞決定までやり通すのは、まる一日がかりのハード・ワークだった。わたしはここで平面作品についての選後評を担当するわけだが、巨大な転換期のさなかにある今日では、空間のヴィジョンそのものを示す絵

画よりも、そのヴィジョンをはらんだ物体を現実の空間に提出する立体作品の方が、決定的回答を出しやすいから、大賞が立体作品に帰したのは順当である。絵画も力作が多く、全体の水準は高いのだが、反面どんぐりの背くらべで、決定打がない。

準大賞になった桜井武人は、黒と白を中心にプリミティヴな力で大画面を構成し、《風化の詩（うた）》という題名だが、風化に抗する想念の核を感じさせる。特選の浜田澄子《自然の内側に入る》は、青灰色を基調とする絵具の厚い層をしつように塗り重ねて、迫力のあるダイナミックな空間をつくりだす。同じく特選の右近多恵子《ゲッコウヨクー》は、逆に黒褐色をおつゆで溶いた淡塗りと自在な筆触で、薄光のなかに人体が横たわるとともみえる、流動的な空間を現出した。神奈川県立近代美術館賞の堂免修《出現A》は、重厚な質感のある釣鐘状の円筒

が虚空に浮ぶ状態を通して、存在そのものを省察しようとしている。美術撰学会賞の遠藤麻紀子《Red Zone》は、赤一面の地肌に亀裂のように走る白い条痕、削った線、影のような黒や濃い赤の流れを配して、副題通り「存在の軌跡」をさぐるらしい。はまぎん財団賞の武田律子《旋・作品12》は、孔版の版画だが、横長の画面の均質で平塗りの赤地の中央に、大小二つの弯曲する金属パイプ柱状の形をおき、そこに光と影、赤色の反映まで描いて、硬質で眩惑的な世界を生みだした。

みられるように、平面の受賞者の大半が女性で、またモノクロームないし色彩への禁欲がめだつ。日本画では審査員がさがし求めたにもかかわらず、受賞者がなかったのは残念だ。

針生 一郎

立体部門

搬入点数50点（44人） 入選点数19点（19人）

今年度から審査制度が変わり、これまで審査員を別にして審査していた平面部門と立体部門が、平面・立体部門として一体化されました。もっとも、公募の受付は、依然平面・立体に分けられていますから、中途半端な気もしますけどね。改めていうまでもなく、現在の美術は平面、立体という次元的区分を必ずしも明瞭にしなくなっていることを考慮すれば、この分類もそのうち何らかの形で解消されていいと思います。そうだからといって、絵画、彫刻という形式の作品の応募が消滅することなどあり得ないでしょう。しかし、折角審査は平面、立体の両部門を一つにしたにもかかわらず、選評のほうは旧態然として、相変わらず平面、立体に分けているところが不徹底という他ありません。全体の選評をすべきです。

さてその立体作品ですが、今年度は全般的に見て低調だったと思いました。大賞は立体部門の結城勉の「個々の領域ー群像II」に与えられましたが、そのことは立体部門の作品のレベルの高さを物語るものとはいい難い。比較していえば、

平面作品はより一層低調でした。そこで、相対的に立体作品がよく見えたということだったと私は思います。

立体作品が低調に見えた理由。この神奈川県美術展の立体部門は一時期、インスタレーション的発想による作品が集中し、それが興味ある作品をもたらしました。しかし、多分室内の展示空間の広がり、ならびに空間の質そのものの限界によったのでしょうか、そうした作品は激減しました。

そして、ほどほどにインスタレーション的で、一方では彫刻的な作品という、不思議な折衷的作品が登場するようになりました。今回の大賞受賞作品がそれです。

大賞受賞作品は、技術的に見ればたいへんな労作ですが、三つ並べているところが、私には今いったような意味で折衷的と見えました。三つだからいけないといっているのではありません。あれはひとつで成立した作品ではなかったでしょうか。何故なら、あの三体の並べ方の無神経さが気になったからです。

特選の銚持啓子の「S A N A G I」も

折衷的性格を持つ作品です。もっと広い空間ならばと思わせるところがあります。しかし、材質に対する感覚はなかなかのものだと思いました。

特選の三沢厚彦の「コロイドトンプ(鹿の居る部屋の記憶)」は、面白い作品だと思いました。しかし、木をつかった廃品芸術的な作品なのですが、木の組み合わせ方がぎこちなくて、混合素材（ミクスト・メディア）の特色が出ていないという感じを受けました。

美術撰学会賞の藤井浩一朗の「循環源象」は鉄彫刻です。スケールの大きい作品ですが形態の新鮮さが乏しい。

いろいろ述べましたが、入賞作品以外の作品はもっとよくなかったということです。

こういう公募展の最大の問題点は、よくても悪くても最低何十点かは入選させるという機構にあります。その評価の相対性を入選者はぜひとも知る必要があると思います。審査員もまたそれを伝える義務がある筈です。

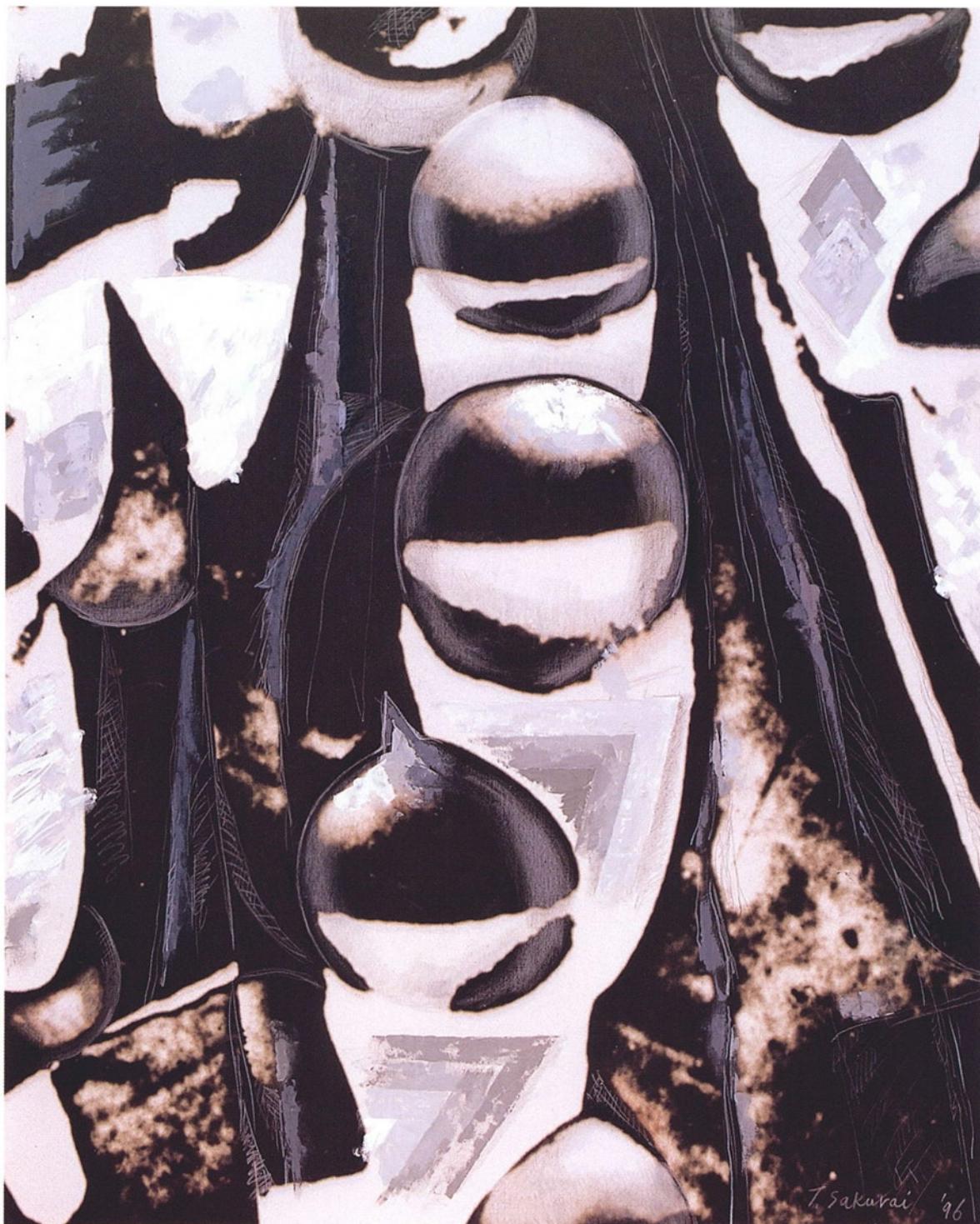
中原 佑介



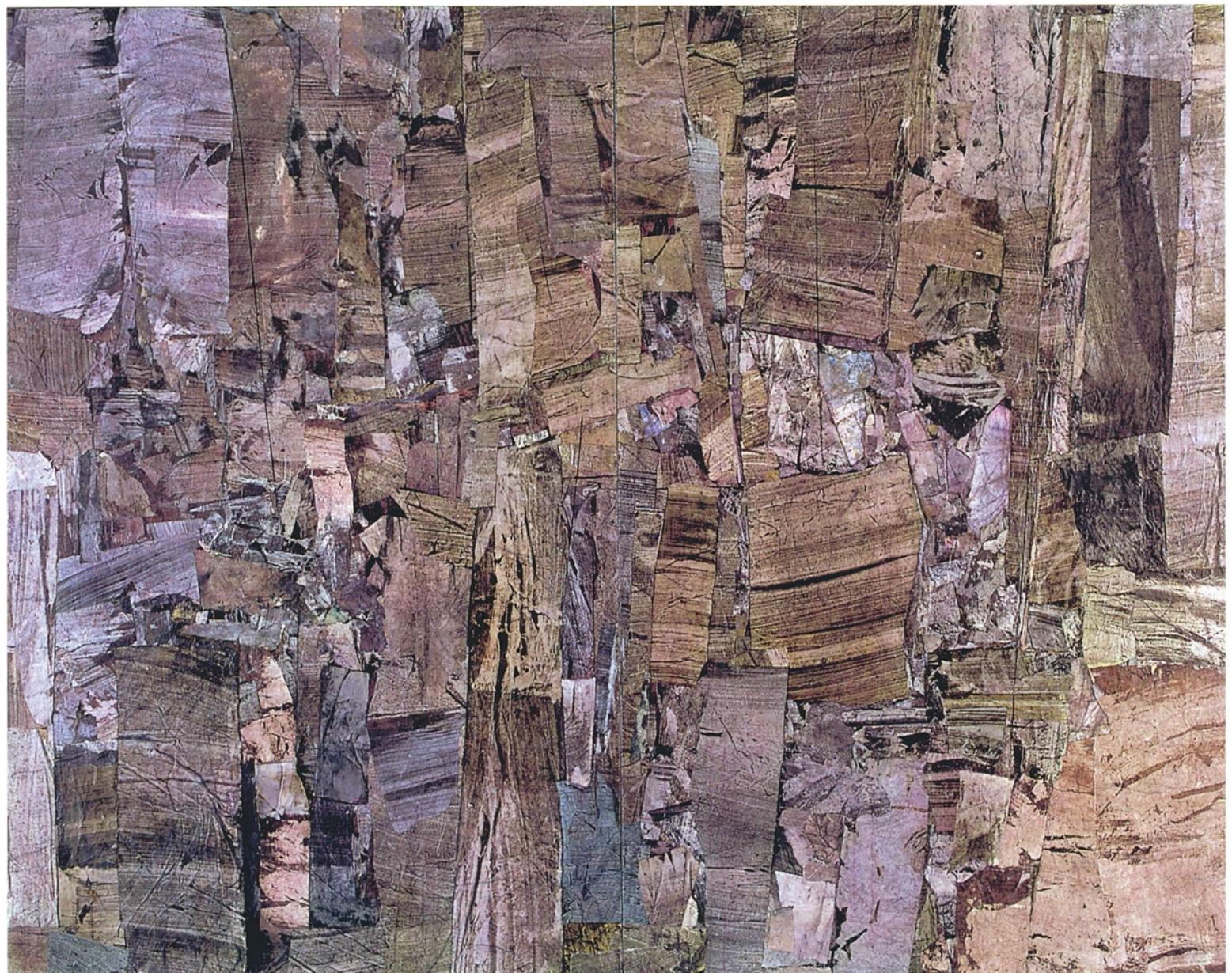
大賞<立体> 個々の領域－群像Ⅱ 結城 勉

略歴 1963 東京生まれ
1987 多摩美術大学彫刻科卒業
1989 同 大学院修了
(個展) 1990,92,94,96 なびす・ギャラリー
1993,94 ギャラリー・スペース“ゆう”
(グループ展) 1987,88 表現の現場展 (多摩美術大学上野毛校舎)

1988 QUATRE DANCE (ギャラリー・スペース21)
1991 “風”的造形展 (すみだリバーサイドホール・ギャラリー)
1993 神奈川アート・アニュアル (神奈川県民ホールギャラリー)
1995 第3回 STEEL ART展 (新日鉄本社ビル)
1988-96 神奈川県美術展 (この間6回出品) (神奈川県民ホールギャラリー)



準大賞<平面> 風化の詩 96H 桜井 武人



特選<平面> 自然の内側に入る 浜田 澄子



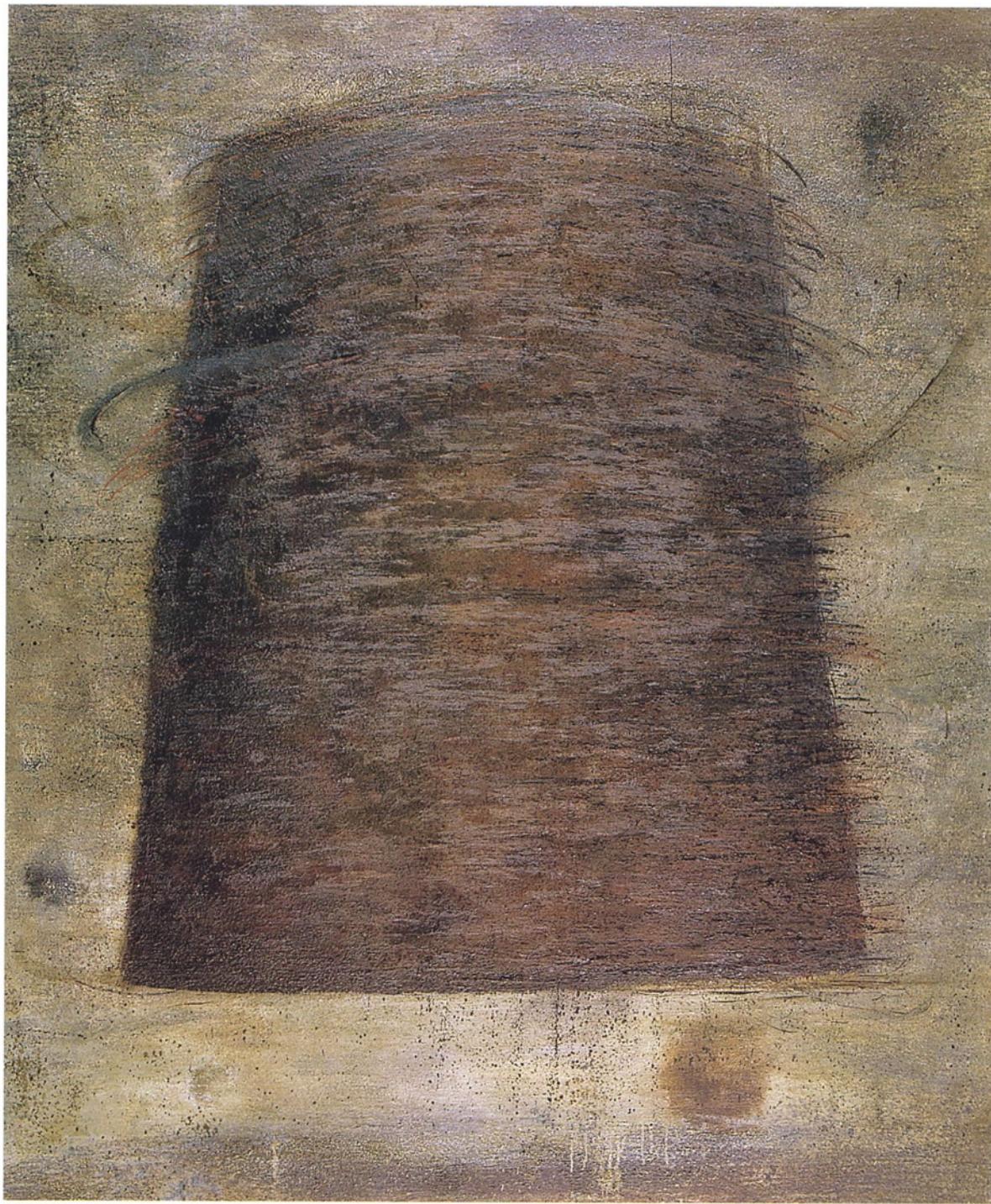
特選＜平面＞ ゲッコウヨク（K-09） 右近 多恵子



特選＜立体＞ コロイドトンプ(鹿の居る部屋の記憶) 三沢 厚彦



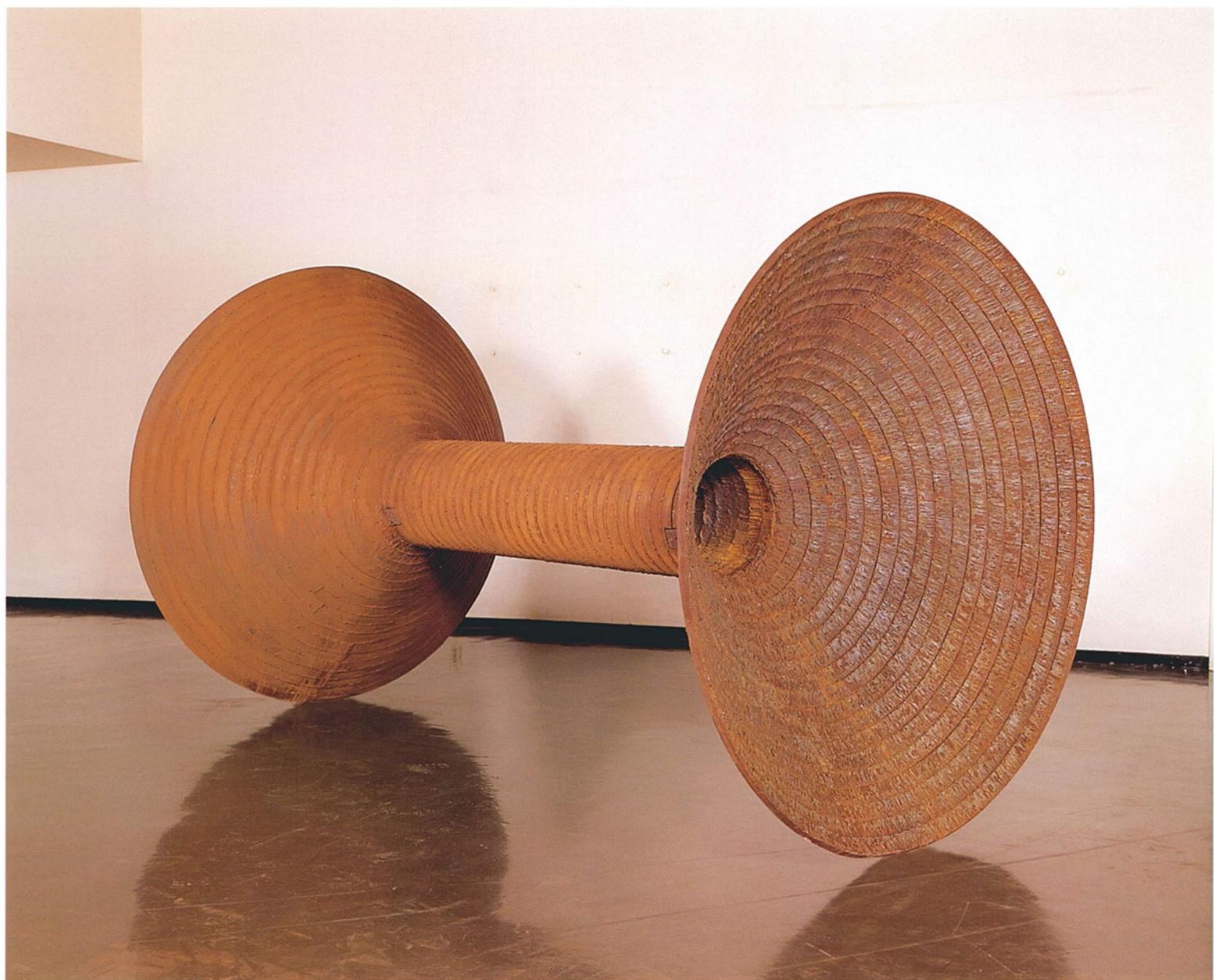
特選<立体> SANAGI-96/1 翁持 啓子



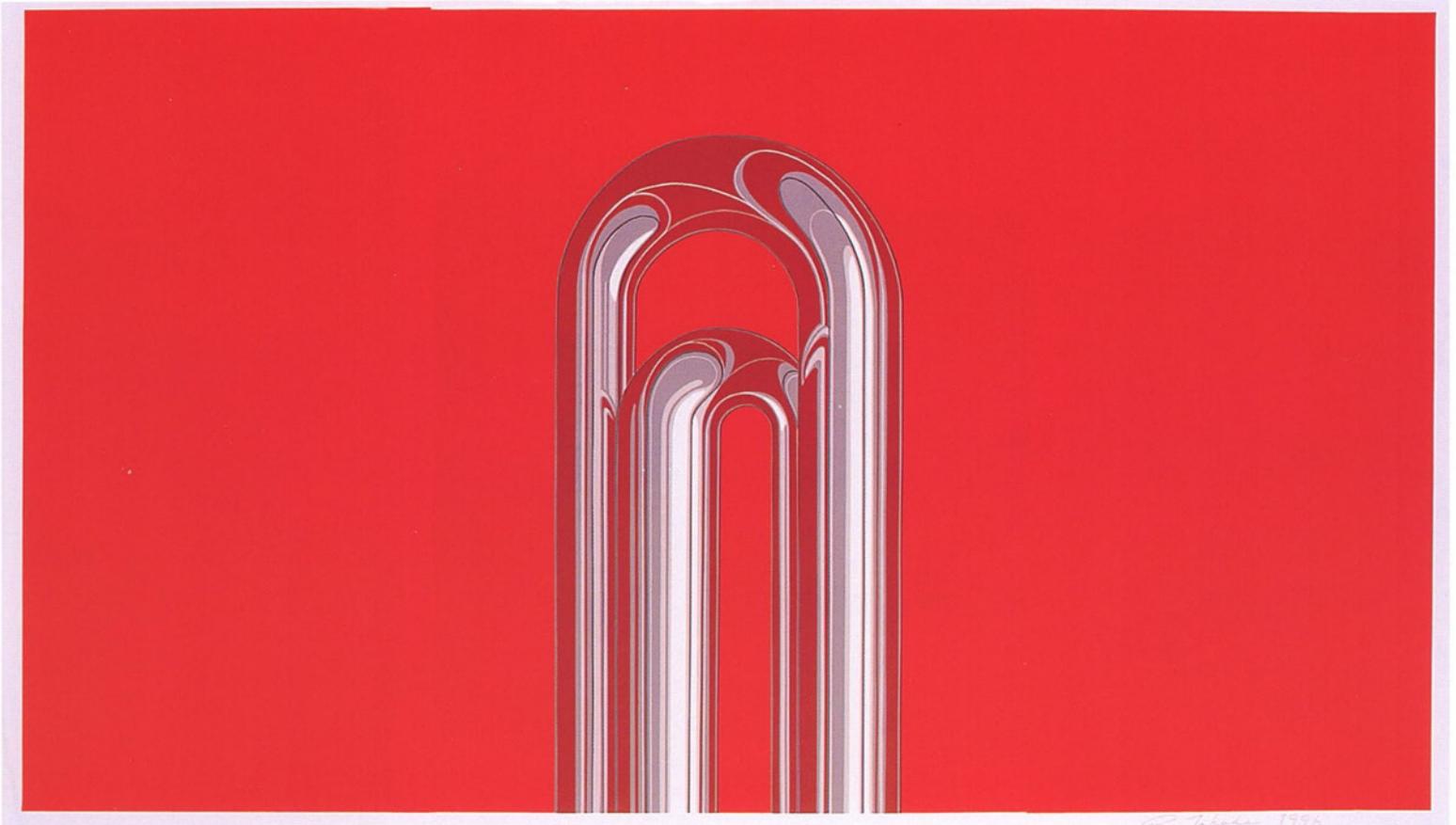
県立近代美術館賞<平面> 出現 A 堂免 修



美術奨学会賞<平面> Red Zone—存在の軌跡より一 遠藤 麻紀子



美術奨学会賞<立体> 循環源象 藤井 浩一朗



はまぎん財團賞<平面> 「旋」作品12 武田 律子

© Toshiro Murota 1996



2期展 工芸・書・写真

受賞作品目録

〈工芸〉

大 賞	今井今日子 (鎌倉市)	Twilight－黄昏－
準 大 賞	高野 聖子 (千葉県船橋市)	天空を仰ぐ
特 選	齋藤 龍也 (横浜市)	白化粧四方大皿
特 選	岡村 徹 (横浜市)	静かなる水の風景
県議会議長賞	大澤 恭代 (厚木市)	風そよぐ
美術奨学会賞	雨宮 裕子 (相模原市)	野草染みだれ箱「けし」
美術奨学会賞	近野 久子 (平塚市)	響
美術奨学会賞	福島 寛子 (横浜市)	鉄絵麻葉模様大鉢
美術奨学会賞	川本ちゑ子 (藤沢市)	家族

〈書〉

大 賞	中西 雅舟 (横浜市)	百人一首より
準 大 賞	西村 節子 (横浜市)	良寛のうた
特 選	日守菜穂子 (中郡大磯町)	金子兜太の句
特 選	浜岡 見雲 (横浜市)	高棟詩
美術奨学会賞	菅野 堯処 (横浜市)	揚範詩
美術奨学会賞	和田 清泉 (海老名市)	秋の月
美術奨学会賞	杉山 幽翠 (横須賀市)	岑参詩 登総寺閣
美術奨学会賞	喜瀬美佐子 (横浜市)	金色の

〈写真〉

大 賞	中 谷 晴 男 (横浜市)	山の民 (ネパール) [3枚組]
準 大 賞	平 井 和 穂 (藤沢市)	ラシェル通りの空き地—パリ18区—
特 選	西 村 栄 八 (藤沢市)	攻防戦 [3枚組]
特 選	村 上 吉 正 (横浜市)	記憶の街 [3枚組]
美術奨学会賞	市 原 欣 一 (愛甲郡城山町)	富士彩雲
美術奨学会賞	福 田 幸 子 (横浜市)	女瞳私 (三人三様) [3枚組]
美術奨学会賞	榊 原 俊 寿 (足柄下郡湯河原町)	母子
美術奨学会賞	今 野 良 一 (横浜市)	午后の浜辺 [2枚組]

入選作品目録

〈工芸〉

- | | |
|-----------------------|------------------------------|
| 佐々木虎男 「大皿」 | 中 村 良 哉 「乾漆朱塗鉢「波」」 |
| 桑原平治 「飴釉組鉢（5客）」 | 林 保 美 「乾漆堆鳥鉢」 |
| 黒川富子 「箱舟を舫う」 | 奥 村 孝 子 「舞い」 |
| 小林輝道 「勾玉遊文花入（羽化）」 | 西 谷 美 香 「白響」 |
| 神津幸浩 「碧釉円垂壺」 | 辻 孝 子 「屈折」 |
| 瀬戸貞雄 「陶芸」 | 谷 内 道 子 「夜の月」 |
| 蓮沼芳子 「山茶花花器」 | 原 茂 一 「柳目伊羅保釉壺」 |
| 安井伸 「蛙の面に」 | 青 井 良 子 「カリヨンの鳴る町」 |
| 北川智浩 「瑠璃海扇釉鉢」 | 尾 形 光 俊 「練込銘々皿」 |
| 石川清 「流し釉飾り大皿」 | 牧 野 公 一 「NET」 |
| 栗原恒子 「風の詩」 | 川 井 綾 子 「黄瀬戸ドンブリ組物」 |
| 島 幸子 「早暁〔春〕」 | 木 村 桜 子 「想」 |
| 佐藤智子 「手紡ぎ 編と織のコントラスト」 | 齋藤恵津子 「環」 |
| 石綿明子 「布目搔落蒲文鉢」 | 木 下 貞 雄 「練上稜線壺」 |
| 金子清 「鉄釉白掛刻線文皿」 | 水 吉 郁 子 「ripple II」 |
| 小松直美 「花」 | 羽鳥惠霧 「花のかたち」 |
| 岳野為雄 「刷毛目組皿5枚組」 | 山 田 圭 子 「鰯のひらき」 |
| 釣 敬子 「切子花器」 | 南雲龍比古 「南の島の渚にて」 |
| 久光宣子 「昼下がり」 | 角 村 治 城 「追風」 |
| 八木陽子 「旅の夢」 | 南 田 和 子 「野草染五段引出し」 |
| 杉山真喜子 「空間の思惑」 | 汐 谷 美 樹 子 「記憶の断片」 |
| 今林三恵子 「野菜たち」 | 村 山 恵 子 「波の輪舞・II」 |
| 徳竹孝絵 「世界樹」 | 三 村 左 季 「悠遊（染織）」 |
| 鈴木紀子 「備前手びねり波文花入」 | 植 松 次 男 「耳を澄ますと、きっと竹の声が聞こえる」 |
| 渡辺由紀子 「空の想い」 | 安 井 海 「岬」 |
| 小野寺和子 「刺繡着物 こぶし」 | 重 村 都 子 「象嵌大壺」 |
| 福島寛子 「鉄絵格子模様大鉢」 | 島 村 信 一 「赤とクリスタル」 |
| 浜辺春代 「雪模様組皿」 | 佐 藤 緑 子 「蓮華」 |
| 建部敏枝 「ジュウリー2点」 | 二 瓶 陽 子 「野草染 二尺引出し」 |
| 大友茂子 「陶器（花器）」 | 本 田 和 子 「花喰い」 |

-
- 君島六郎 「焼締銀彩三角連紋器」
亀井知子 「mirror square」
岩崎忠夫 「乾漆変塗十二稜盛器」
山本美世子 「家路」
内田正男 「灰釉流文壺」
山口浩二 「宙吹二色被泡玉大皿」
高野源太郎 「焼締柘榴文様刻皿」
赤坂容子 「ガムラン踊りの人形」
西山義彦 「輪花櫛目皿」
高部康子 「風の道」
五味彦一 「金銀彩大鉢」
佐野伸司 「壺（望雪）」
石井恵子 「並白釉（壺）」
高橋恭一 「備前 壺」
芳野勝己 「朝もやの樹海」
能代眞由美 「七つの子」
根岸律子 「春の雨」
飯島克己 「香合 “秋”」
米澤昌一郎 「白マット織部釉壺」
木村隆男 「備前大壺」
志田美智子 「硝子切子皿束熨斗模様」
尾形政子 「波涌」
田名網光夫 「乾漆盛器「夕なぎ」」
高橋智哉 「銅鍛金海象像」
高橋あづま 「四角形の誘惑」
森廣信枝 「そして、海は…」
宮森茂男 「備前手捻花入「川」」
坂本一馬 「水温む頃」
長井直子 「伊羅保ドラ鉢（5枚組）」
古根 香 「海月夜」
- 岩井尚子 「着物」
服部 純 「乾漆朱塗八稜鉢」
佐藤京子 「巨木の空洞」
鈴木陽子 「いっちゃん盛大皿」
渡辺真理 「深山」
横田 敦 「酸化焼締象嵌扁筒」
甲斐雪江 「願い」
山本静枝 「蒼風」
大石英夫 「油滴天目茶碗」
原田春土 「海の花（花器）」
原田和香子 「貝幻想A（花器）」
柴田近子 「あけぼの」
金子将之 「練上花器「爽然」」
長崎 悟 「波紋深鉢」
大内明雄 「黄釉組皿」
山下敦子 「慈しみ」
大野恵一 「黒釉木の葉文中鉢」
深尾雅子 「Orion」
江良栄子 「焼締重筈」
小海有希 「心淵（しんえん）」
澤村祐子 「霞」
乃木吉之 「森の精」
中田 文 「唐銅觀音花入」

〈書〉

- 石鍋竹紅 「和歌二首」
小林廣洲 「感懷」
岡田珠美 「三十六歌仙」
熊澤艸洲 「寒山詩」
白鹿光秋 「崔尚書を辞す」
山本花聲 「唐詩」
平田十臥 「王維詩」
小林千幸 「空の色さへ陽気です 時は楽しい五月です」
綿貫吉野 「斎藤茂吉のうた」
指旗登美 「地上禮讚」
穂坂美代子 「山口青邨の句」
高橋秀栄 「メヌエット」
佐野幸代 「三宅惟子のうた」
石井久美 「武内俊子のかもめの水兵さん」
北川泰 「三好達治詩」
今正嗣 「西条八十詩 夕」
三井郁子 「伊藤真蒼の袋」
力石里恵子 「加藤まさを詩 月の沙漠」
中山政子 「金子秀夫の詩 惜別の海」
林田紀子 「中原中也の詩 秋の日」
森田新菜 「三宅惟子のうた」
柄木郁子 「俵万智のうた 山山の夏の目覚めに・・・」
堤智子 「三好達治詩 アヴェ・マリア」
松本靖美 「井上靖詩 あじさいより」
大木銀子 「雲 谷川俊太郎詩」
志村寿女 「北原白秋詩 月光微韻」
片平堯子 「浜辺の歌 林古溪詩」
大木明子 「宗左近詩「挽歌の挽歌」」
土屋郁英 「佐藤惣之助「村」」
齊藤昌子 「海」
- 沖田春江 「かの日」
野田容子 「秋のビエロ」
伊奈未紗 「遠景」
小野華恵 「ぶだう」
小菅照子 「念すれば花ひらく」
笛沼積子 「お母さん」
八木静香 「銀河鉄道999より」
三谷麗月 「山崎豊子の「大地の子」より」
相馬澄月 「草野心平の詩 裏磐梯より」
杉森伯泉 「浜辺の歌 林古溪の詩」
西山秀嶺 「一得一失」
及川節子 「追憶の母より 田中冬二詩」
茂又武子 「恋はやさし野辺の花よ 小林愛雄の詩」
真鍋光子 「俳句」
廣川心齋 「短歌 浜野ヨシイの歌」
深川静燕 「短歌 与謝野晶子のうた」
柴本華雪 「胡の笛鳴れば 温庭筠の詩」
福島霞葉 「高田敏子の詩 あじさい」
高橋玉鳳 「鳶の笛」
小泉恵俊 「浜千鳥」
名畠美峰 「孝女白菊の歌」
加賀谷紫峰 「鳥の手紙」
上田穂香 「あかあかと」
中鉢都 「露くさや」
戸ヶ崎光子 「月のかつら」
阿部洋子 「思う人」
佐藤香子 「鳳仙花」
市川春聰 「夢」
蛭名悦子 「撫子」
久我知聰 「大海」

渡辺政子	「孟浩然詩「洞庭に臨む」」	石井右千	「林鴻詩」
饗庭雅翠	「いはがねの・・・」	杉浦右花	「吳均詩」
明石蕙州	「くれなゐの花に・・・」	長谷川右扇	「陶潛詩」
岡本蘇心	「若山牧水の歌」	木須青苑	「嚴嵩詩」
高野梅香	「左太郎のうた二首」	鈴木青秀	「吳錫麒詩」
内海蓉子	「詠月（五言八句の古詩）行草体」	奥田栖芳	「月夜（杜甫詩）」
島田玲花	「吳錫麒 雜詩其一」	林陽子	「百人一首より」
山野景翠	「謝公亭」	松本亘正	「杜子美詩」
菅井穂谷	「吳蘭雪詩」	貝原積眞	「安岡正篤先生詩」
加藤晴泰	「夏完淳詩」	青木湘堂	「李賀詩 秦王飲酒」
木下静朝	「陸游詩」	杉森玉園	「古詩」
風間小羊	「李白の詩」	神東榮春	「姚合詩 拾得古硯」
竹内栖涼	「喜達行在所（杜甫詩）」	川添紅琇	「李白詩 望廬山瀑布」
塙崎晴潮	「閨戸本古今集臨」	佐藤曜香	「王維詩 酬郭給事」
茶木静萌	「李白詩二題」	飯田容風	「島崎藤村詩集 草枕」
井澤洋高	「澑湖山寺」	植松龍泉	「浦源詩」
山田惠茜	「沈佺期詩二題」	原岡紫泉	「李邕詩」
藤原星汀	「張說詩二題」	平岡千恵子	「秋日觀稼樓晚望」
和田静月	「杜審言詩二題」	小原庭処	「隋宮」
坂神深陽	「山居秋暝」	上原華泉	「劉滄詩」
横山蘭葉	「杜甫詩」	兵部彩泉	「王維詩」
増木萌寿	「孟浩然詩二首」	榎原光処	「贈日本僧智藏」
渡邊有香	「公子行」	安地蓮処	「李夢陽詩 田園雜詩」
安部梅陽	「賈至詩」	廣町茜泉	「蘇東坡詩」
東山右徹	「元好向詩」	谷口春泉	「蘇東坡詩」
松尾右翠	「李賀詩」	佐藤柚処	「古詩三首」
菊島右雪	「李思衍詩」	楠琴処	「賈至詩二首 岳陽樓重宴別王八員外貶長沙」
菱田右紫	「李白詩」	野澤遊泉	「王維詩」
中溝右暉	「劉禹錫詩」	尾崎靜鳳	「謝靈運詩」
小川右佳	「李白詩・春夜宴桃李園序」	辻巻蘿泉	「亂後逢村叟 杜荀鶴詩」

庵 華 翠	「沈周詩 留連山間迨暮始返棹」	荒 砂 典 子	「草枕」
田 端 蒼 秀	「陸游詩」	中 山 玉 韻	「李白詩 送友人」
野 頭 莊 雲	「黃鸝聞」	牧 野 忠 雄	「渡揚子江 丁仙芝詩」
小 山 莊 雪	「送儲邕之武昌」	座 間 幽 洋	「登弁覺寺 王維詩」
木 下 滔 泉	「倍寶侍御泛靈雲池」	成 木 初	「苑大成詩」
鈴 木 天 鳴	「唐詩選より 白帝城懷古」	藤 谷 桂 雪	「漢字 周立詩」
渢 谷 莊 江	「王維詩 過乘如禪師蔚居士嵩丘蘭若」	浅 羽 紀 代 子	「李白詩 江上吟」
神 藤 莊 松	「唐詩」	田 代 和 江	「杜甫詩二首」
相 部 小 香	「桔梗」	志 村 魯 嵩	「許渾の詩」
古 谷 史 枝	「古今和歌集より 春くれば」	岡 崎 香 芳	「杜甫詩」
柴 田 李 笹	「尹無忌詩」	黒 田 沙 嵩	「李孝謙の詩」
八十川 悅 子	「海をとめ玉求むらし・・・ 万葉集五首」	江 間 細 香	「華察の詩二首」
佐 藤 俊 恵	「松むしの」	鈴 木 芙 蓉	「劉長卿三首」
池 上 好 子	「秋」	中 里 健 哉	「蕭穎士詩」
早瀬 香 谷	「禪語四句」	立 木 紫 紗	「和歌一首」
浅 間 静 江	「与謝野晶子短歌二首」	竹 田 晃 堂	「人磨の和歌七首」
長 島 正 恵	「春（和歌六首）」	萩 原 華 径	「万葉集より 二首」
坂口みち子	「和歌二首 いつしかに・・・」	布 野 玉 桃	「西行の歌」
加 藤 翠 郷	「陶淵明詩」	笠 原 映 翠	「霧が峰」
横 山 翠 扇	「ひぐらし」	長 尾 雪 永	「入り日の塔」
毛 受 海 南	「邊元鼎の詩 新香」	中 野 靜 枝	「斎藤茂吉歌二首」
稻 葉 竹 苑	「古詩」	内 藤 慧 華	「花」
内 田 洋 子	「春の日の」	大 澤 清 雨	「淨らかに水のこだまをうけとめて」
長 岡 抱 琴	「さくら花」	鈴 木 白 鶯	「女郎花」
小 林 昭 子	「沙羅の花」	古 明 地 万 松	「貴之の歌二首」
小 池 青 芳	「恋歌」	岡 本 光 草	「我行窮水國」
河又世津子	「新涼の」	村 上 創 雲	「臨 小島切」
塩 沢 鶯 州	「いろはに」	徳 田 桂 雪	「臨 香紙切」
佐 藤 礼 子	「夏の夜は」	伊 藤 子 扇	「臨 本阿弥切」
西 木 梅 子	「春山の」	貴 納 萬 魁	「崔氏東山草堂（杜甫詩）」

〈写真〉

- 宮崎 菲瑠 「張九齡詩」
仁上 小葉 「諸人共游周家墓柏下」
書川昌子 「なびきよる雲のすかたのやはらかさ・・・」
木多 緑舟 「こころざし」
中川由紀子 「さざなみや」
島田 幸舟 「富士」
中溝 清香 「春のよのゆめ」
森 俊行 「硯」
齋田麗華 「山家集」
大江喜幸江 「大海の」
大岸昌子 「あまつかぜ」
降旗節子 「百人一首」
赤穂恭子 「秋の歌」
村山ちい 「元永本古今集」
佐野圭雪 「良寛詩集より 75Pより (余郷有一女)」
新井青谿 「早春寄王漢陽」
佐野恵子 「良寛の歌」
吉本寿峰 「五言律詩 (寒山)」
村井純子 「万葉集」
伊藤青光 「夕暮」
佐藤青香 「古今和歌集より」
逸見月草 「古今和歌集より」
服部青昌 「百人一首より」
高橋芳聲 「万葉の歌」
神原秋翠 「古今和歌集より 春の歌」
加藤靖湖 「芭蕉の奥の細道より」
吉田陽子 「巡礼」(3枚組)
山崎廣 「廃線」
永田恵遠 「朝餉」(2枚組)
君塚宣良 「阜頭の一隅」
高木英明 「アドボードアラカルト96」
△ 「ミナト光彩21A・B」(2枚組)
澤田秀雄 「生活」
矢花一弘 「新異人」(3枚組)
本間英夫 「名峰幽邃」(2枚組)
北畠光久 「白い雲」
酒井一郎 「淡い朝」
藤原満 「孤峰・黎明」
花崎宏平 「小春日和」
鈴木ススム 「雨霧」
渡部満 「森のアトリエ 季節のうつろい」(4枚組)
小林克己 「創芸家」
堀坂和夫 「球を追って」(3枚組)
飯野聰 「静寂」
山本雄二 「ブロッケン」
中間知利 「おぼろ月夜」
西山久次 「昇陽」
中川英治 「夕染めの山」
吉田喜久 「秋冬流転」
小川康博 「music」
田中利文 「月の砂漠を夢みて」
△ 「睡蓮讚歌」(4枚組)
橋本春男 「笠雲飛舞」
堀内晶 「風の響き」
齋藤幸郎 「富士夜景」
清野義雄 「夏の日」

吉村英夫 「花光彩」(3枚組)
榎田守 「日の当る坂道」
渡部義範 「ひよどり」
北原実 「古木雪余」
長谷川雄二 「北天に舞うⅠ・Ⅱ」(2枚組)
西尾絢子 「風雅(富士山五合目)」(2枚組)
大関通夫 「だんじりの軌跡」(2枚組)
藤井健 「コンテナー」
上石寿美雄 「雪の朝」
内田清一 「北の仲間たち」(2枚組)
青砥文俊 「絵金の韻」
原田みさ子 「湖上の朝」
田中純一 「津軽」
△ 「鎮魂歌」(6枚組)
尾原芳子 「花ごよみ」(3枚組)
福居寛美 「航海日誌」
中島義範 「海に生きる(越前海岸)」(3枚組)

審査経過

工芸部門

搬入点数245点（190人） 入選点数122点（121人）

工芸部門には、今回245点の応募があった。前回より若干減という。それでもこれだけ工芸部門への出品が多い県展は、全国的にもあまりないだろう。しかもジャンル別の片寄りがなく、タピスリーからジュウリーまで、実に多種類の作品で、いかにも首都圏の県展にふさわしい賑々しさがあった。それは工芸制作を楽しむ人たちが、都市生活者を中心に増えつつある現状の証と見られ、工芸の将来にとって頼もしく感じられることがある。

内容についてみると、いわゆるプロの工芸家ではなく、工芸家としての将来像を描きつつ制作に励んでいると感じられる人びと、自分の好む工芸のジャンルはすでに決まっていて、その表現技法を学び深めて、できることなら生涯にわたって制作を続けていきたい、と思っている多くの人たちによる出品であったと推測される。

審査する側は出品者について予備知識がない。ただ今回の受賞者たちの年齢をみると、20歳代から60歳代まで各年

代の人たちである。出品者全体の年齢も、恐らくそれと大きく異なることはないだろう。こうしてみると、工芸に関わるもの一人として、プロ作家の個人的な仕事に期待する以上に、工芸を楽しむ人たちの潜在的な力に対する期待が高まってくる。彼らは21世紀の工芸の一翼を担う新しいタイプの作家となるのかも知れない。ただそれには一人一人が工芸を楽しむ現状の姿勢を保ち続けて、しかもそれぞれの感覚や個性が感じとれるような今以上に魅力ある作品を作り続けていくことができなくてはならない。

プロの作家には彼等なりの目標があるものだ。工芸を楽しもうとする人たちは、技法はともかく、プロ作家の目標や既成のジャンルの形式に捉われて、それらしく作ろうとする必要はない。自由に、のびのびと、それぞれが納得する作品作りを心がけて欲しい。使うものであっても、飾って楽しむものであってもよい。工芸の枠を広げるような生新な気分と活気が味わえる作品を作り続けて欲しい。

大賞には若い今井今日子さんの織りの

作品が選ばれた。出品2回目での栄冠であり、「たそがれ」の時空が鮮やかな色の対比の中に織り表された大作である。タピスリーとして現代的な空間にもよくマッチするだろう。

準大賞は高野聖子さん的人形作品「天空を仰ぐ」に決まった。ボディは桐。比較的大型で、衣装の扱いやボディの動きを含む全体の構成に独自のものがあり、注目された。

斎藤龍也氏の「白化粧皿」、岡村徹氏の「静かなる水の風景」の2作品は共に特選。前者は陶芸作品中の力作だが、縁の扱いが煩瑣ではないかという指摘もあった。後者の場合も、器形と模様のどちらかを抑え気味にした方がよかったかも知れない。

美術奨学会賞には雨宮裕子さん、近野久子さん、福島寛子さん、川本ちゑ子さんが、県議会議長賞には大澤恭代さんがそれぞれ受賞となった。

長谷部 満彦

書部門

搬入点数271点(271人) 入選点数214点(214人)

国民生活の三大要素は、何といっても衣、食、住である。芸術はこの上に成り立っている。昨今景気の低迷により、出品数の減少はまぬかれない事実である。質の向上は喜ばしい事ではあるが、数の減少は気になるものである。

その中にあって、書部門はわずかながら 6 点の出品数増加であり、嬉しいことである。

書部門は漢字・かな・近代詩文の三部門に分かれているが、漢字部門は今年特に不振が目立っていた。これは、本県の

漢字がそうであるというのではなく、有能な人達がここを巣立っていって、後に続く者がそうすぐには出てこないということである。その復活には2、3年を要するかも知れない。

かな部門は近年著しい進歩が見られるが、今回は特に良かった。どうかすると、最近「かな」は大字形式が多くなってきているが、本展では、昔ながらの平安朝单がなの小字のかなが特に優れている。これは全国地方展としても貴重な存在といえる。今回の大賞、準大賞の作品もこ

のケースであった。

近代詩文書はその内容からして、もっと墨への関心を高めて貰いたい。濃い墨色一辺倒では、その語意の表現がはなはだ不充分で情趣にとぼしい単調なものになってしまふからである。

以上感じたままを述べたが、このようなことを考慮して質の向上を来年は期待したい。

吉田 蘭処

写真部門

搬入点数172点(86人) 入選点数94点(52人)

第32回展から新しく、財団法人神奈川芸術文化財団・神奈川県・神奈川県美術展委員会が主催となった。また、工芸・書・写真各部門の賞がそれぞれ一本化した。

審査員も、各分野で活躍している写真家並びに評論家7人で構成された。第一次から第三次まで、一点一点、審査員の挙手によってABCに分けられ、入選が内定した。その入選作に対して、各審査員から活発な意見が述べられ、入賞候補は投票によって決定された。昨年より入賞が4点少なく、上位8点が入賞という大変厳しい選出であった。

全体の総評について、各審査員から一言ずつ述べられた。(敬称は省略)

江嶋隆=全体的にレベルアップしている。特に組写真のドキュメンタリーの力作が多くかった。

江成常夫=現代写真の方法論として、新しい二極の課題を含んだ作品が寄せられた。その象徴が大賞、準大賞に表現されている。

岡井耀毅=最終に残った作品は、高い水準である。全体にいえることは、組み

方の必然性を反省すべきである。

梶原高男=全国各地の県展を見ているが、神奈川県展が一番秀れている。

白旗史朗=低調かと思われたが、光るものがあった。大賞作品は、ネパール民族の日常生活が実写的に示され成功だった。準大賞は、実に細かい作業が細心の意図だ。

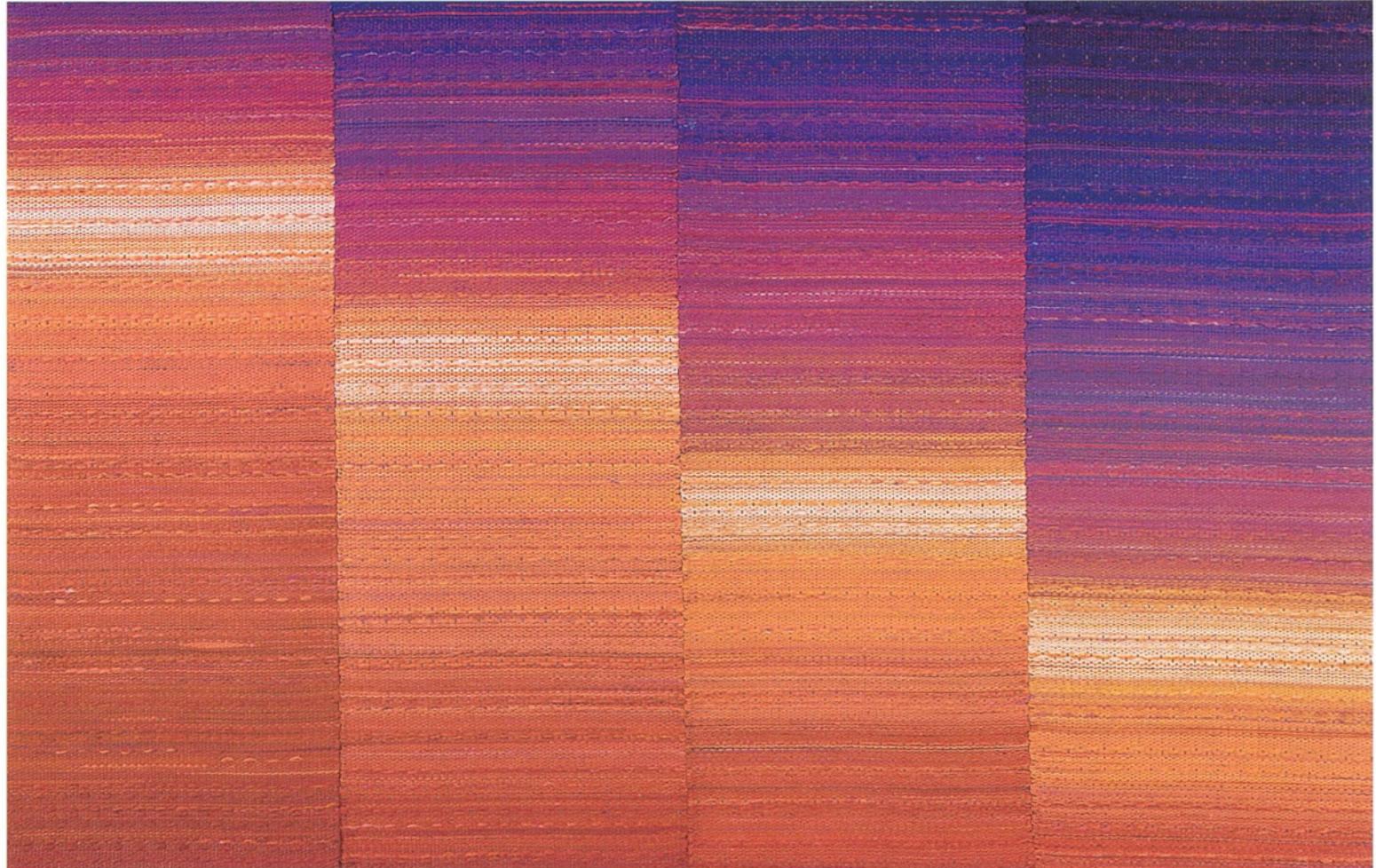
田沼武能=大賞の「山の民」ネパール民族、タコン族、リンブタカリ民族の生活感が実に良く出ている。

浜口タカシ=大賞の中谷晴男「山の民」3枚組は、作者によると現地に5回も訪れ、2,500メートルの山岳地帯に生きる人々の姿に深い感動を受けたという。迫力あるヒューマンなドキュメントである。準大賞の平井和穂「ラシェル通りの空き地」単写真は、大変根気のいる斬新な創作作品といえる。特選の西村栄八「攻防戦」3枚組は、アメリカンフットボールの激戦をモノクロで力強く、うまいシャッターチャンスでとらえている。同じく特選の村上吉正「記憶の街」6枚組は、庶民の生活をリアルに素直な視点

で捉え、犬などユーモラスな作品である。美術奨学会賞の市原欣一「富士彩雲」単写真は、富士山の気象変化の一瞬を捉え、逆光を生かした彩雲を見事に描いた素晴らしい作品である。同じく美術奨学会賞の福田幸子「女瞳私」3枚組は、女性のポートレートをエフゲラにプリントした画像をコンピューター処理するという新しい技法を駆使した、斬新な作品である。

美術奨学会賞の榎原俊寿「母子」単写真は、シマ馬の親子を的確に無駄のないフレーミングのモノクロで表現したことが成功した。美術奨学会賞の今野良一「午後の浜辺」2枚組は、西伊豆の漁港で捉えた作品で、赤い網とゴム手袋を干してある場面を画面一杯に取り入れた強烈な色調が印象的であった。その他、賞候補として北原実「古木雪余」、吉田陽子「巡礼」など、優れた作品が多かった。

浜口 タカシ



大賞<工芸> Twilight—黄昏— 今井 今日子

略歴 1972 鎌倉市生まれ
1992 女子美术大学芸術学部工芸科入学
1994 第30回記念神奈川県美術展工芸部門入選
1995 三人展「現象」(同和火災ギャラリー)
1996 アートブライ(株)入社
第70回記念国画会展工芸部入選
テキスタイル企画・デザインに携わる一方、制作活動を続ける。



準大賞<工芸> 天空を仰ぐ 高野 聖子



特選＜工芸＞ 白化粧四方大皿 斎藤 龍也



特選＜工芸＞ 静かなる水の風景 岡村 徹



県議会議長賞<工芸> 風そよぐ 大澤 恭代



美術奨学会賞<工芸> 鉄絵麻葉模様大鉢 福島 寛子



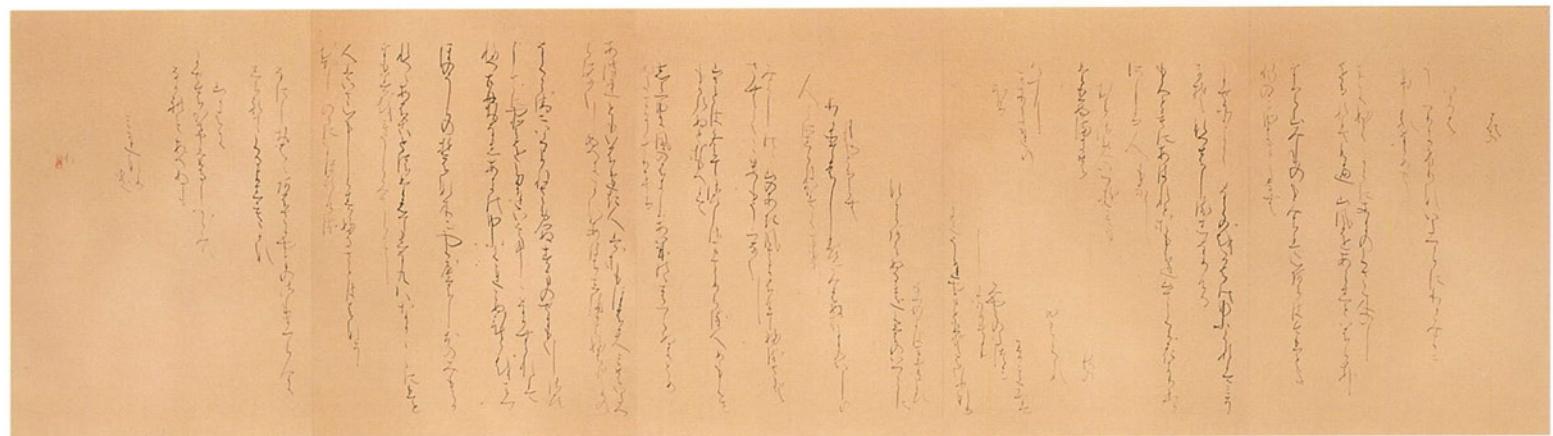
美術奨学会賞<工芸> 家族 川本 ちゑ子



美術獎学会賞<工芸> 野草染みだれ箱「けし」 雨宮 裕子



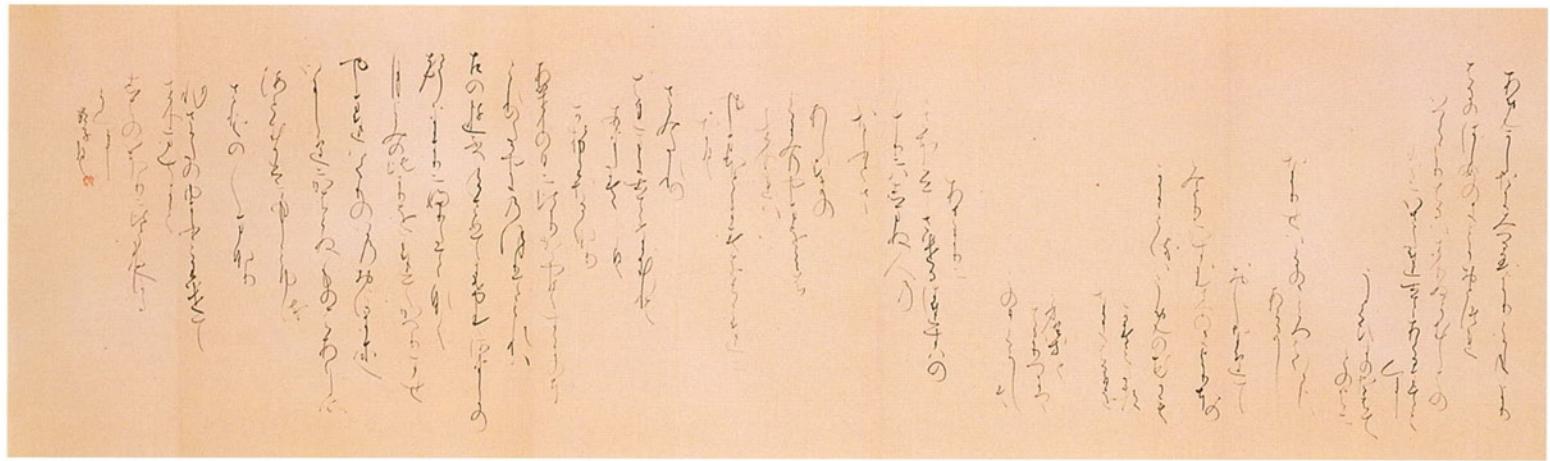
美術獎学会賞<工芸> 韶 近野 久子



大賞<書> 百人一首より 中西 雅舟

略歴 第30回記念神奈川県美術展 美術奨学会賞
読売書法展 入選
日本書芸院展 特選2回 一科会員
笹波会理事

山口南艸師事



準大賞<書> 良寛のうた 西村 節子



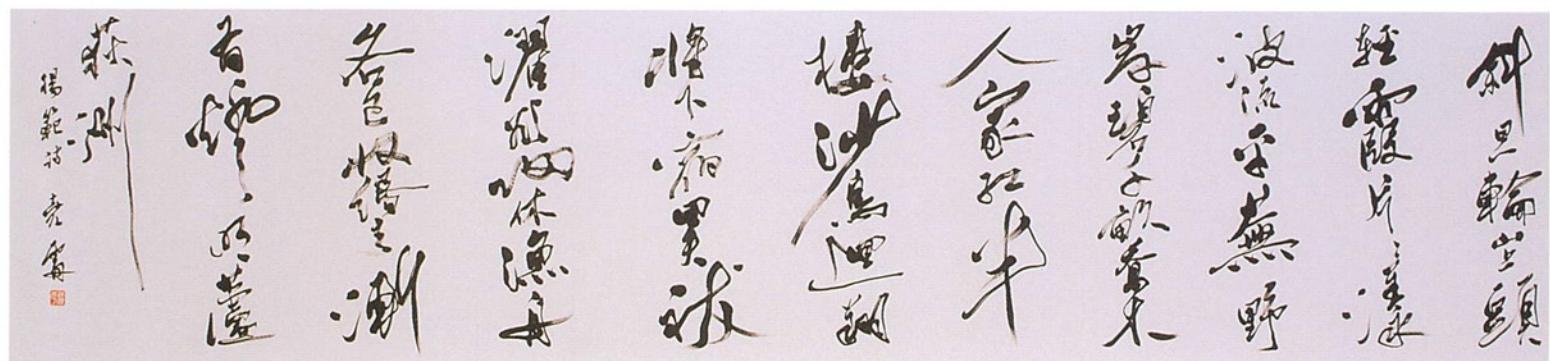
金子兜太
書道家

菜穂子

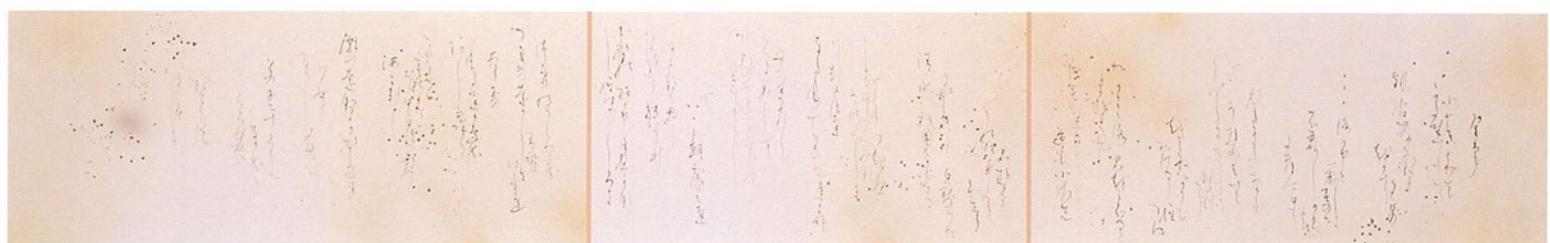
特選<書> 金子兜太の句 日守 菜穂子



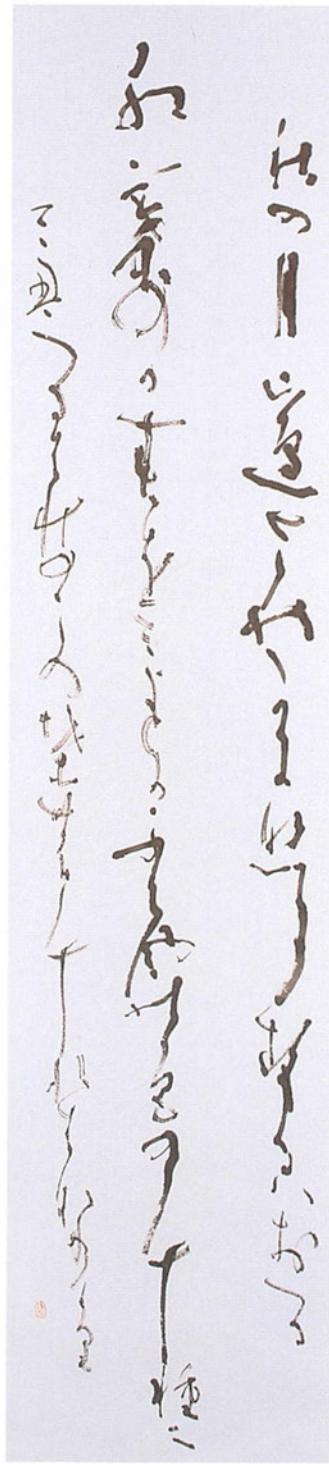
特選<書> 高棟詩 浜岡 見雲



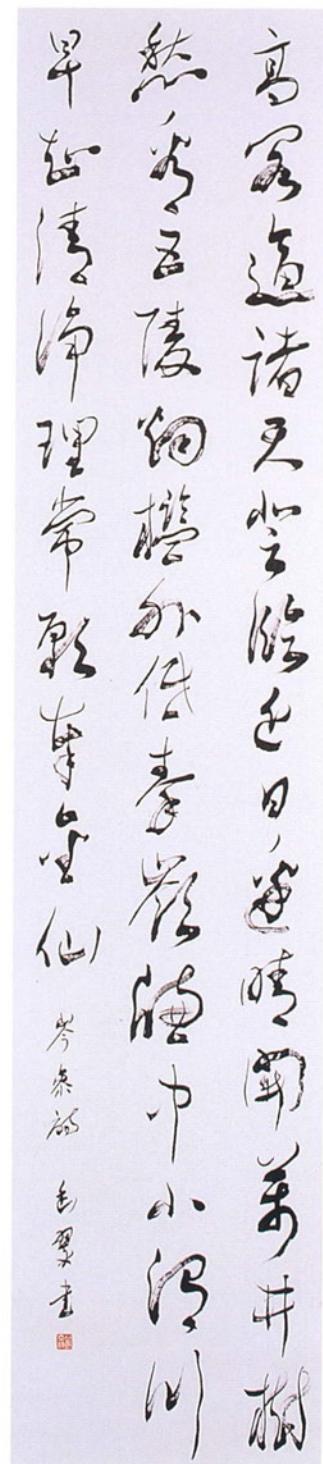
美術獎学会賞<書> 揚範詩 菅野 堯処



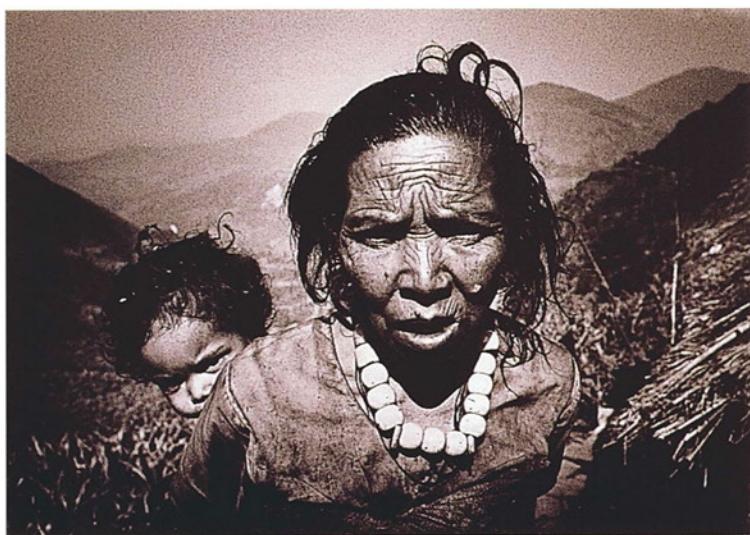
美術獎学会賞<書> 金色の 喜瀬 美佐子



美術獎学会賞<書> 秋の月 和田 清泉

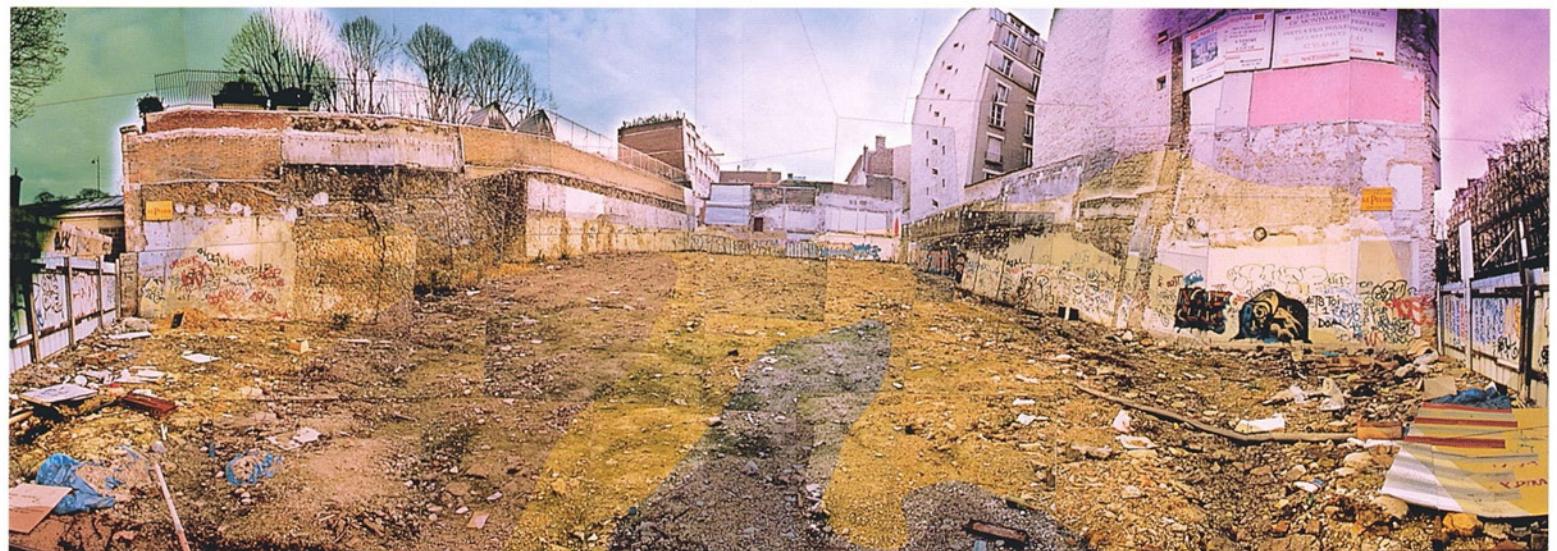


美術獎学会賞<書> 岑參詩 登総寺閣 杉山 幽翠

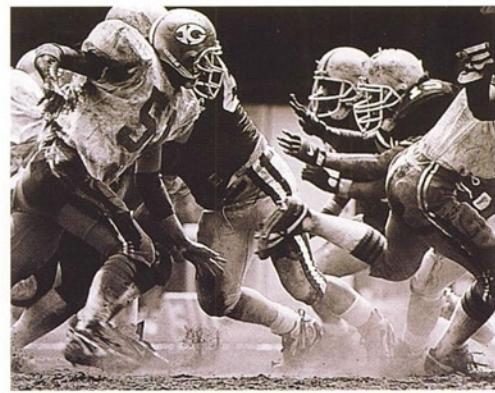
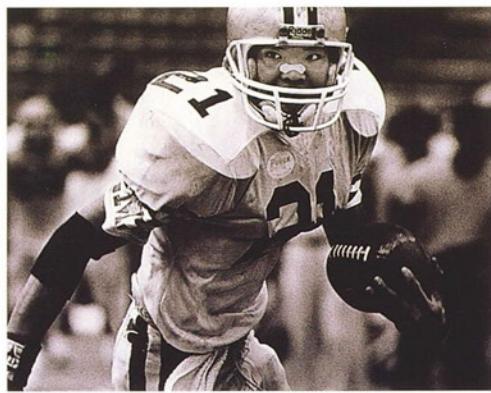


大賞<写真> 山の民(ネパール) 中谷 晴男

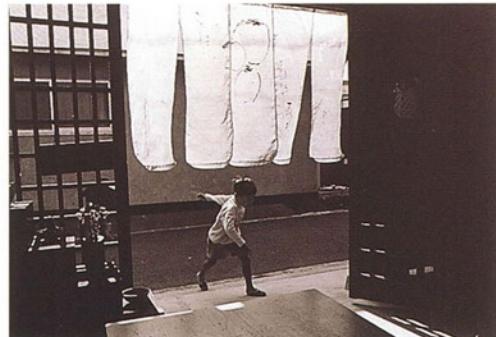
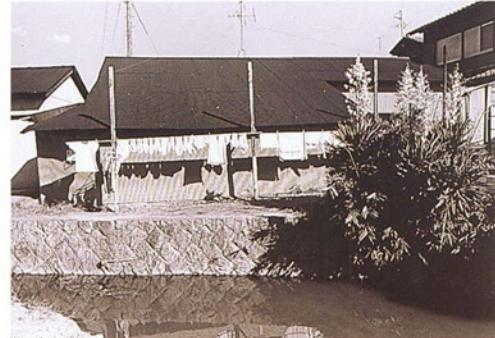
略歴 1930 京都市生まれ 同志社大学卒
日産生命勤務後、フリー。横浜市在住。
写真家杵島隆、鈴木健夫（J P A）に師事。
ハマ写真家集団、読売写真家クラブ、ニッコールクラブ会員。
賞歴
1991 世界らん展日本大賞写真部門 1位
同 美術工芸部門 優秀賞
1995 蘭友会杵島賞
第31回神奈川県美術展特選
神報連コンテスト特選
1996 銀座アートグラフで蘭、乱、らんの個展（9月）



準大賞<写真> ラシェル通りの空き地 —パリ18区— 平井 和穂



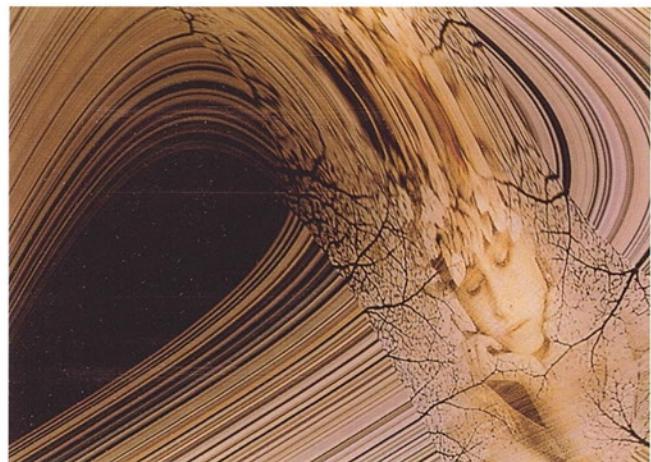
特選<写真> 攻防戦 西村 栄八



特選<写真> 記憶の街 村上 吉正



美術奨学会賞<写真> 富士彩雲 市原 欣一



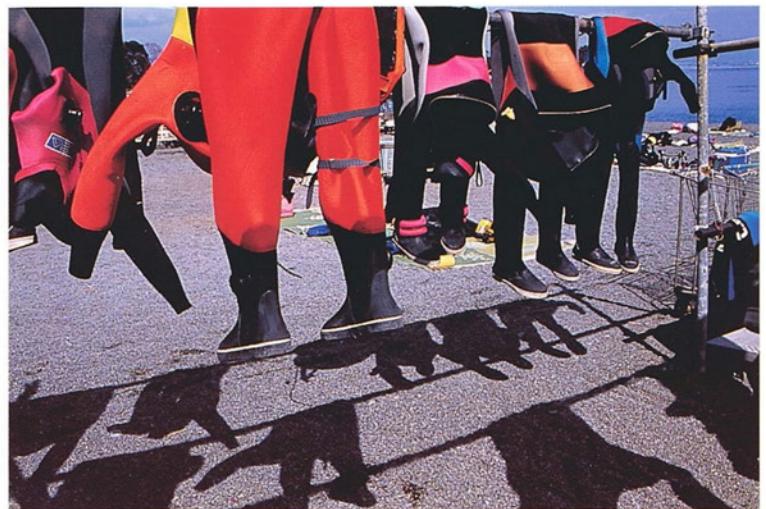
美術奨学会賞<写真> 女瞳私(三人三様) 福田 幸子



美術獎学会賞<写真> 母子 梶原 俊寿



美術獎学会賞<写真> 午後の浜辺 今野 良一



大賞受賞者

第1回	昭和40年度	大森 運夫	『九十九里』	日本画
第2回	41年度	廣瀬 義男	『作品Ⅰ』	洋画
第3回	42年度	垣内 治雄	『坐る』	彫刻
第4回	43年度	川村 直子	『'69-A・'69-B』	洋画
第5回	44年度	山井イク夫	『Laby 70-1・2』	立体造形
第6回	45年度	伊藤 彰	『天涯巡礼』	日本画 大久保利園『Straw』工芸
		西川 万象	『盧子諺詩』書	
		加賀谷武男	『にっぽん NONSENSE ZONE』写真	
第7回	46年度	中西新太郎	『落日』	洋画 島津 碧嵒『寒山詩』書
		大谷 正夫	『師ミス・ザンダー(フェリス女学院)』写真	
第8回	47年度	佐々木英夫	『人間の風景1・2』	版画 林 良達『騎士』工芸
第9回	48年度	河原 明	『蜻蛉』	彫刻 石川 充宏『Girl in chair』工芸
第10回	49年度	大山 鎮	『語り』	日本画
第11回	50年度	鎌田 恵子	『Lost my way』	工芸
第12回	51年度	泉谷 淑夫	『愁傷のモニュメント』	洋画
第13回	52年度	井上 麦	『黒の女'77』	彫刻
第14回	53年度	坂田 一之	『MIRROR』	立体造形
第15回	54年度	前本 利彦	『暗い部屋Ⅰ・Ⅱ』	日本画 川口 流坡『菅原道真詩』書
第16回	55年度	和久井Who	『HANGING』	立体造形 市原 欣一『ふるさと』写真
第17回	56年度	坂井 彰夫	『SEISHO』	彫刻 高木 参平『BODY』工芸
第18回	57年度	小泉 正彦	『冬の木』	洋画 井上 隆敏『イグナドバ選手』写真
第19回	58年度	井上 麦	『土の系譜』	彫刻 茶木 静谷『竹聲松影』書

第20回	59年度	東谷 武実	『日蝕F』	版画 西 雅秋『CASTING VIEWPOINT』野外彫刻
		林 亘	『クリスタル大鉢“洞”』	工芸
第21回	60年度	鶴見 厚子	『夢の質感』	洋画 石渡 四郎『硫黄島の再会』写真
第22回	61年度	会田富二男	『駆けゆく母子像』	彫刻 浜本 幸舟『良寛詩』書
第23回	62年度	高橋 洋子	『WAVE(BLUE FENCE)』	立体造形 森山 可余『俳句(原石鼎)』書
第24回	63年度	三枝 孝司	『複製された場所』	版画 管間ゆみい『夢印象』工芸
第25回	平成元年度	セツ・スズキ	『アンタニアワカルメ』	彫刻 片岡 順一『大気現象』写真
第26回	2年度	山本 靖久	『時の化石—豊沃のかたち』	洋画 高橋あづま『遙かなる亜熱帯』工芸
第27回	3年度	荒井 正美	『蟻の迷走』	彫刻 相沢 順一『樹界』写真
第28回	4年度	たべけんぞう	『MAGNETIC FIELD 92-2』	立体造形 中森 万象『郎士元詩』書
第29回	5年度	王 青	『チベットの娘』	日本画 平野 朱美『電解ザウルス』工芸
第30回	6年度	辻 忍	『野辺』	彫刻・立体造形 八木 香葉『笛澤美明詩 菊』書
第31回	7年度	R 津田	『封印—過去と未来—』	彫刻・立体造形 中田 文『阿弥陀堂釜』工芸
第32回	8年度	結城 勉	『個々の領域一群像II』	平面・立体 今井今日子『Twilight—黄昏—』工芸 中西 雅舟『百人一首より』書 中谷 晴男『山の民(ネパール)』写真



おおきくなあれ。

横浜駅東口はポルタをまんなかにして
ますます大きく広がります。



ワクワクの種、あります。

YOKOHAMA

PORTA

7つの魅力を身にまとう。 タカシマヤカード新登場



入会金・年会費
すべて無料!

お申し込み受付中。

●お申し込み・お問い合わせは、
(横浜店6階・玉川店5階・港南台店4階クレジットカウンターまで)

トクするカードで、トクする暮らしはじめましょう。

★特典 1 タカシマヤカードでのお買物で、ポイントを集めると
「お買物券」をプレゼント。

お買上げ額100円ごとに7ポイントを進呈。獲得ポイントが
2,000ポイントになった時点で、2,000円のお買物券と交換
できます。ポイント積立期間は1年間です。

★特典 2 バーゲン品やボーナス払いでも100円ごとに3ポイントを進呈。

★特典 3 国内外のVISA、JCBの加盟店でもご利用いただけます。
VISA、JCBの年会費も無料になります。
またご利用額200円ごとに1ポイントを進呈。
このほか、特別ご優待企画、便利なキャッシングサービスなど、
おトクな特典がいろいろです。



Takashimaya YOKOHAMA
横浜駅西口/TEL(045)311-5111

プロのために、プロの品揃えです。



画材／書道用品／製図・デザイン用品コーナー

■本店〈文具館〉4F・5F/横浜・化粧キ町 TEL.(045)261-1231 ■藤沢店 藤沢駅南口名店ビル5F TEL.(0466)26-1411

■横浜駅東口ルミネ店 ルミネ5F TEL.(045)453-0811 ■厚木店 小田急線・本厚木駅前 TEL.(0462)23-4111

※ルミネ店は書道用品・日本画材のみ取り扱っております。

有隣堂ギャラリー イセザキ町・本店書籍館5F

《個展・グループ展》申込承り中 ※お申し込み・お問い合わせ…有隣堂宣伝室ギャラリー係 ☎(045)825-5507

財団法人

神奈川県美術奨学会



■美術振興基金募集

当法人は、県内の美術振興と新人作家の発掘・育成を目的として昭和45年に設立、以後毎年「神奈川県美術展(神奈川県・神奈川県美術展委員会主催)」に出品された優秀作家に奨学金(美術奨学会費)を給付していますが、基金を増額し、更に意義ある奨学金といいたしたく篤志家の御寄付をお願いしております。

皆様方の御協力をお願い申し上げます。

なお、寄付金は、基金に繰り入れさせていただき、この基金の運用金(利子)から奨学金として給付されます。

■■■■■事務局(申込先)〒231 横浜市中区日本大通1 県庁文化室内 ☎045-201-1111 内線3428 ■■■■■

セルテから新しい Good for you.

おトクなポイントカード

セルテ俱楽部 ただいま、会員募集中!

セルテをもっとエンジョイして欲しいから、おトクなポイントカード「セルテ俱楽部」誕生。
最新のファッショやお気に入りのグッズから、多彩な美味しさ揃ったカフェ&レストランまで、
使えば使うほど、うれしさステップアップ。各種イベントのご招待など、うれしい特典もいっぱいです。
もちろん入会金、年会費は無料。さらに楽しい、さらにおトクなセルテをどうぞ。



Good for you
CERTE

横浜市中区真砂町3-33(JR・地下鉄関内駅前) TEL045-651-1431(代)



時代の「こころ」を奏でます。

私たちは、

さまざまな表現を駆使して

情報に命を吹き込む

ユニケーションの

トータルクリエーター。

マックintoshやウインドウズのデータから

SGML、CD-ROM、
インターネットホームページ作成など

情報をカタチにします。



野毛印刷は、情報化時代の多彩なニーズにお答えします。

- マッキントッシュからハイエンドへ、文字・画像データの統合処理システム完成。お客様が制作した文字データ、レイアウトデータからダイレクトに印刷物が作成されます。
- データベースの構築、顧客管理＆名簿作成など、コンピュータを駆使してつくるものならどんなものでも、コンピュータに強い当社におまかせください。
- 効果的なDM展開が可能なシークレットメール。リーフレットを折りたたんだ封筒兼用タイプ、1枚で2枚分の情報を盛り込めるハガキタイプなど、ご相談に応じます。
- ポスター、カタログ、チラシ、パンフレット、リーフレット、マニュアル、営業案内、会社案内、定期刊行物、PR誌、カレンダー、テレホンカード、包装紙、ショッピングバッグ（紙orポリ）、図録、写真集、自分史、社史、記念誌、その他、印刷に関わるものなら何でも、どんなことでも、お気軽にご相談ください。

通産大臣賞 中小企業庁長官賞 東京通産局賞受賞

野毛印刷

本社／横浜市中区相生町5-79 〒231 ☎(045)681-0861㈹
営業本部／横浜市南区新川町1-2 〒232 ☎(045)252-2511㈹
東京営業所／東京都港区浜松町1-2-17 〒106 ☎(03)5401-1231㈹

営業企画本部
(045)252-2511

FAX. 営業企画本部／(045)252-8826
東京営業所／(03)5401-1230

印刷ショップ 株式会社アトラス
中区相生町5丁目 馬車道 ☎(045)641-4132

企画・デザイン 株式会社エイ・シー・ピー
中区弁天通4丁目 ☎(045)201-8263

たくさんの“感動”を運びました。
日通の美術品輸送は内外文化交流の一役を担っています。

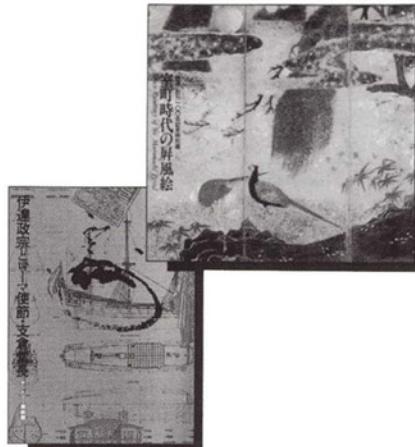
IT IS OUR BUSINESS TO CARRY "INSPIRATION"

The Transporting of Works of Art by Nippon Express Plays
a Major Role in Domestic and Foreign Cultural Exchange

主要取扱実績

Major Exhibitions Handled by Nippon Express

ミロのヴィーナス展・VENUS DE MILO
ツタンカーメン展・TUTANKHAMEN
レンブラント名作展・EXH. OF REMBRANDT MASTERPIECES
大阪万国博美術展・EXPO'70 ART EXH.
ゴヤ展・GOYA EXH.
モナ・リザ展・MONA LISA EXH.
東大寺展・EXH. OF TODAIJI TEMPLE
江戸大美術展・THE GREAT JAPAN EXH.
将軍の時代展・THE SHOGUN AGE EXH.
インド古代彫刻展・ANCIENT SCULPTURES OF INDIA
比叡山と天台の美術展・THE ART OF TENDAIJI BUDDHISM
ロダン展・AUGUSTE RODIN EXH.
黄河文明展・EXH. OF CIVILIZATION OF THE YELLOW RIVER
藥師寺展・EXH. OF YAKUSHIJI TEMPLE
日タイ修好100周年展・EXH. OF ART TREASURES OF THAILAND
世界現代ガラス展・WORLD GLASS NOW EXH.
神々のかたち—仮面と神像・THE SHAPES OF GODS—MASKS & IMAGES OF GODS
シーボルトと日本・VON SIEBOLD AND JAPAN
大エジプト展・THE EXH. OF ART TREASURES OF ANCIENT EGYPT
17世紀オランダ絵画展・HOLLANDISCHE UND FLAMISCHE MALEREI UND GRAFIK DES 17. TH.
柿右衛門展・KAKIEMON STYLE WARE EXH.
スミソニアン・アメリカの大発明展・SMITHSONIAN INSTITUTION NATIONAL MUSEUM OF AMERICAN HISTORY
鎌倉彫刻展・UK FESTIVAL (KAMAKURA SCULPTURE EXH.)
ミレー展・MILLET EXH.
大英博物館展・THE BRITISH MUSEUM EXH.
中国兵馬俑展・CHINESE TERRA COTTA SOLDIERS AND HORSES EXH.
トプカプ宮殿秘蔵展・THE SPLENDOUR OF TURKISH CIVILIZATION - OTTOMAN TREASURES OF THE TOPKAPI PALACE
日本国宝展・NATIONAL TREASURES OF JAPAN
ローマの支倉常長展・HASEKURA TSUNENAGA EXH. IN ROME
ユーロパリア展・EUROPALIA EXH.
ヴァチカン展・MASTERPIECES FROM THE VATICAN-JAPAN
三井寺秘宝展・ART TREASURES OF MIIDERA TEMPLE



「信頼と技術」で
美を包む。

取扱業務

美術品、骨とう品、宝石、高価品、民芸品、標本、模型、精密器械
および企業展、物産展、その他催事全般。

- これらの内外の海 陸・空輸送に関するいっさいの作業
- 保 管
- 運送保険、積荷保険……輸送と展示の全期間を通じて一括付保する一貫保険も取扱っております。



日本通運 横浜北
支店 ☎045-521-2222

第32回神奈川県美術展 関係者名簿

顧問

小倉 遊亀
近藤 弘明
國領 經郎
斎藤 義重
井上 信道
圓鍔 勝三
蓮田脩吾郎
殿村 藍田
比田井南谷
菅原 寿雄
弦田平八郎
中原 佑介
吉田 耕三

工芸

飯野 啓三
奥田小由女
坂井 教人
鈴木 三成
永井鐵太郎
長谷部満彥

書

飯田美砂子
伊奈 翠陽
岩澤 蕙堂
大島 嵐山
仙場 右羊
殿村 藍田
吉田 蘭処

神奈川県美術展委員会

委員長 上野 豊
委員 井上 玲子
江成 常夫
神戸 由雄
酒井 忠康
勝呂 忠
竹田 悅堂
永井鐵太郎
長谷部満彥
浜口タカシ
針生 一郎
平松 礼二
柳生不二雄
吉田 蘭処
渡辺 豊重

写真

江嶋 隆
江成 常夫
岡井 耀毅
梶原 高男
白旗 史朗
田沼 武能
浜口タカシ

実行委員

書

船本 芳雲
丹羽 蒼処
河合 瑞祥
鈴木 蓉処
久保田昭子
四宮 撫琴

写真

片岡 順一
小西 昭夫
阿部タモツ
鈴木 健夫
三井 文一

審査員

平面・立体
井上 玲子
酒井 忠康
勝呂 忠
建畠 哲
中島 千波
中原 佑介
針生 一郎
平松 礼二
藤嶋 俊會
吉田 克朗
渡辺 豊重

第32回神奈川県美術展

発行●財団法人神奈川芸術文化財団 ©1996

神奈川県民ホールギャラリー
〒231横浜市中区山下町3-1
TEL.045-662-5901

表紙デザイン●渡辺豊重

撮影・株式会社菊屋写真工房●大橋一彦
本文デザイン・制作●株式会社 野毛印刷社
発行日●1996年10月1日

